



著者プロフィール

鵜田智哉（ときた・ともや）

1969年 木更津に生まれる
1996年 「魚座」入会
1998年 南十字賞・魚座新人賞受賞
2001年 俳句研究賞受賞
俳人協会会員

〈句集『こゑふたつ』より転載〉
〈2005年時点〉

『こゑふたつ』（自選十五句）

鵜田 智哉

畳から秋の草へとつづく家
また空がひらいて空のさくろかな
こほろぎのゐる港には怖い船
壁に浮きうすばかりふとはなりぬ
ともだちのかたはらを這ふ秋の蛇
電線は冬の海よりはじまれり
湯さめしてもとの形のありにけり
西風は人の襟巻かも知れぬ
逃水をちひさな人がとほりけり
人形の吊られて春の日のさかり
蛇穴を出でたるかほのゆらゆらす
遠足が真昼の山に来てもどる
夏蝶を見るまに橋の朽ちにけり
十薬にうつろな子供たちが来る
夏いつか鰭のうすれてゆく魚